

市民合意のない桜町・大会議場 300 億円の税金投入は中止を

「桜町再開発への大会議場整備に関する検討委員会」が開かれていますが、「大会議場整備先にありき」の論議です

検討委員会を先行せず、市民への説明責任を果たし、意見聴取を

民間事業者がすすめる桜町再開発（総事業費 500 億円の予定）に、熊本市が 300 億円以上つぎ込む「大会議場」整備検討委員会が開催されています。

（8月26日第1回、9月2日第2回、10月15日第3回開かれました）

検討委員会は、5回開かれ、「大会議場整備基本計画」策定に関し、施設の規模・機能、管理運営等を答申する予定です。

大会議場については市民への説明がほとんど行われておらず、市民合意もないまま「整備先にありき」で議論が進んでいます。

市民への説明責任を果たし意見聴取を行い、市民合意のない大会議場整備の検討はすべきではありません。学識者、地元経済界、コンベンション協会、マスコミ、市・市議会の代表、総勢 20 名で構成（会長・両角熊大副学長）

議会の複数会派から、疑問と「整備の是非を問うべき」の意見

10月7日の市議会「中心市街地活性化特別委員会」では、共産党市議団だけでなく、複数会派から大会議場整備に疑問の声が出されました。

「議会への説明もないまま、報道が先行し、つくることありきで説明している」、「検討委員会が先行していることに危惧を感じる。財政見通しが示されないと、議会としての判断ができない」

「数百億円の事業費をつぎ込む大事業でありながら、戦略が見えてこない。熊本市のコンベンションの課題は宿泊施設。大会議場は民設民営でいいという声もある」

日本共産党としても、300 億円以上も税金を投入する大会議場整備が今必要なのか、市民への説明責任を果たし、合意のない大会議場整備の見直しを求めました。

地上 15 階、景観条例に抵触する大会議場は、問題点がいっぱい

- ・市の大会議場が入る桜町再開発事業は地上 15 階、熊本市の景観条例（高さ制限 55m）を大きくオーバーしています。
- ・大会議場の事業費は二百数十億円が予定され、事業者の言いなりです。（大会議場の床面積・約 3 万㎡）



再開発総事業費500億円(床面積12~13万㎡)

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

No. 871

2013年10月20日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



【控室から】

永遠のヒーロー・アンパンマン

益田牧子

子どもたちにも大人気のアンパンマンの作者・やなせたかしさんが94歳で死去。自らの従軍体験から、生み出したこれまでと違うヒーローがアンパンマンです。

やなせさんは、「正義とは、飢えている人を助けること。政治だって、飢え死にする人がいるなら、どこか間違っているんですよ」と。シンプルだけど、深い洞察に基づく人生哲学があります。「おにぎりが食べたい」と書き残し、餓死した人を出したのも、やなせさんのいう「間違った政治」の結果です。私は、「貧困に取り組まない政治家はいらない」を信条に、ホームレス支援活動等に生活相談所を拠点に取り組んできました。住居を確保した人が、「二番うれしかったことは、温かいご飯を食べられたこと」と言ったことが印象に残っています。

やなせさんは、「ほんとうの正義とは、決してかっこいいものではない」とも言っています。地味でも、政治の貧困と闘い続けようと思いを新たにしました。

高齢者作業所の存続を求める切実なおもい

「高齢者の生きがい なくさないで!」

熊本市 今年度で「生きがい作業所」廃止の方針

陶芸、手編、木彫、園芸などを通じ、高齢者の生きがいを育んでいる場所が「高齢者生きがい作業所」（年間経費は356万円）です。老人福祉センターなども含め、市内10カ所で講座が開催されています。

現在、講座（1年間）に参加している方は82名。また講座卒業後も引き続き作業所に集まっている高齢者は600名にも及びます。

生きがい作業所を視察・聞き取り

こうした声をうけ、早速、生きがい作業所を訪問。作業の様子を見学するとともに、利用者の思いを聞かせていただきました。

この日、陶芸の講座が開かれており、陶器の本焼きが行われていたほか、10数名の利用者が、作陶に取り組まれていました。

利用者からは、「数十年にわたって作業所に



作陶に取り組む利用者の方々

しかし、熊本市は、この事業を「熊本市版事業仕分け」にかけ、「カルチャースクールなどが増え行政が担う必要はなくなった」「施設が老朽化している」等を理由に、「廃止」の方針を決めました。

利用者からは、「引き続き講座に通えるよう、存続してほしい」「生きがいを奪わないでください」など切実な声が寄せられています。

通っている。陶芸に出会い、作品をつくるのが生きがいとなっている。」「考えながら・手を動かしながら・おしゃべりをしながらの作業は痴呆防止になっている」「カルチャーセンターの講座では、作陶から本焼きまで一連の作業ができない（焼窯がなく外注に出すため）。存続してほしい。」「廃止を決める前に現場に来て、利用者の声を聞いてほしい」などの声が出されました。

また他県から熊本市に移住してきた高齢者の方は、「生きがい作業所は、他の都市にはない素晴らしい取り組み。廃止ではなく、拡充し、全国に広げてほしい」との思いを語ってくれました。

いきいきと作業に取り組む姿に触れ、時代に合わないどころか、高齢者の生きがいを育む貴重な場所としてさらなる支援の必要性を感じました。



作業所には焼釜が設置

市議会のブラジル・ペルー訪問 420 万円

あえて1名追加せず最小限にとどめるべき

11月8～19日（12日間）、熊本市議会からブラジル・ペルーを訪問します。

ブラジル熊本県文化交流協会創立55周年記念式典（10日）と熊本県ペルー移住110周年記念式典（16日）への参加を目的にした訪問で、当初議長1名が参加を予定していました。しかし、9月議会最終日に、自民党から1名追加で参加することが提案され、多数の賛成で決められました。（日本共産党市議団3人と自由クラブが反対）

海外での公式行事には、議長が参加すれば役割は果たせます。1名増やす必要はありません。なぜ、1名追加するのか、自民党から参加するのか、全く不透明です。12日間という長期間でもあり、2名の参加のために、420万円が使われる予定です。

（随行費用まで含め、一人210万円）

1名追加には、納得できる理由がありません。税金による議員の海外渡航は、最小限にすべきです。

【日程】

（1～2日目）くまもと出発・ブラジル到着

（3日目）ブラジル熊本県文化交流協会創立55周年記念式典

（4・5日目）サンパウロ領事・市議会訪問・農場視察

（6日目）ペルーへ移動 （7日目）リマ大使館・国会視察

（8日目）熊本県ペルー移住110周年展示開会式、資料館見学

（9日目）熊本県ペルー移住110周年記念式典

（10日目）県人会名誉会長主催昼食会

（11～12日目）ペルー発・熊本到着